

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームふきのとう東館 第1ユニット	評価実施年月日
		平成20年8月13日
評価実施構成員氏名	大内 良勝(管理者) 植村 美恵子(介護支援専門員) 山口 美智子(リーダー) 高木 美幸(計画作成担当者・アシスタントリーダー)	
記録者氏名	植村 美恵子	記録年月日
		平成20年8月19日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念を作り上げ提示している。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	定期的に理念に基づいたケアをミーティングで話し合ったり、介護計画を意識しながら、カンファレンスを行なっている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進委員会や、ご家族の来訪時、「ふきのとう通信」の送付、支援計画の説明等で理解して頂くようにしている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	夏祭りの開催の案内を出したり、親近感を感じる挨拶、声掛けに努めている。社長、自らの声掛けでユニットに遊びに来てもらった事もあった。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	東小樽町会の潮パレードが今年から中止になったが、望洋ふれあいセンターでのイベント参加、若竹小学校(運動会及び学芸会の観覧)、桜町中学校(文化祭の観覧、雪明かりの雪像作りの協力)、近隣の方々も参加して頂けるような夏祭りの開催で地元の方々との交流に努めている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進委員会等を通じ、認知症の知識を伝える事が地域の高齢者の暮らしに役に立つのではと思われる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		より多く機会を増やせるよう意識していく。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		新入社員の為にも、勉強会を開催したい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者に対し特別な窓口は設けていないが、常に、要望や苦情を訴える事ができるよう、受容的態度で接するよう心掛けしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月1度の「ふきのとう通信」や来訪時、特変時には個別に報告をしている。金銭管理は、毎月、領収書と明細を報告したり、物品購入時にご家族の了解を頂いている。最近の職員の異動はない。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口による苦情、相談を書類化して回覧、話し合いを行ない、運営に反映している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議、年2回の懇親会の他に、今年からユニット内の懇親会を開き全体的に話し合う機会を設けているが、日常でも意見や提案を聞けるようなコミュニケーションづくりは行えている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	家族や本人のご要望で外出時の同行等で職員の不足時は、他のユニットから職員が手伝いにきてもらったりし調整している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	最近の異動は行なわれていない。離職者も話し合いなどにより、最小限に抑えるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	同 上	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	十分なアセスメントを行い、日常生活動作の低下を防ぎながら、安心して生活できるよう、必要な援助を行う体制作りにも努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	新しい入居者はいないが、納得して入居して頂くような体制にも努めている。また本人の希望に合わせた外出、散歩、買い物などの対応も取られており、なじみの家具、家族への電話や来訪にご協力を頂く事で安心して頂ける様、支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	手伝いやアドバイスをして頂き、良い関係が築かれている。特技の図柄等を教えてもらったり、会話の中からも学べることを受容している。職員も定着し、テレビの時代劇やオリンピック等でも一緒に楽しめる時間も増えている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	夏祭り等の行事は案内を出し、一緒に参加する機会を設けている。また来訪や、家族との外出の機会も協力を頂き、増えている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	来訪時に情報交換を行い連携を図りながら、より良い関係が築いていけるように取り持っている。たとえば、兄弟間のトラブルが悪化しないよう気をつけている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	毎月のクラス会参加、祥月命日のお参りの為の自宅外出、入居前からのかかり付け医への通院等、馴染みの場所との関係が継続できるよう支援している。来訪の無かった利用者も親族の来訪があるようになった。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	リビングでの席の配慮、無断で他者の部屋に入ってしまうことでのトラブル防止等、パートナーが間に入ったり、ミーティング等で話し合ったりして利用者同士が良い関係を築けるよう取り組んでいる。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去者はいなく、入院後はまた戻られており該当者はいない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ本人の希望、意向を把握し、状況に応じ対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェースシート、アセスメントからの理解や、ご家族も含め、普段の会話の中から情報を得よう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の一日の過ごし方としてのスケジュール表は作成しているが、日々の変化をモニタリングやミーティングで話し合い、状況に応じ対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者やご家族の要望、アセスメント、モニタリング、カンファレンスをふまえ、ユニットミーティングで話し合い、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		<p>近いうちに警察等にも挨拶に行きたいと思っている。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問看護、訪問診療の看護師と連携を図りながら、日常の健康管理は行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医等の協力医療機関に情報提供を行いながら支援している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問診療、訪問看護の看護師に情報の提供をし、助言をもらいながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院をした際は、早期退院に向けて病院関係者と情報交換を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応に係わる指針を定めており、ご家族に状態報告はこまめに行われている。家族や医療との話し合いは繰り返され全員で方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期に向け、ご家族、かかりつけ医、看護師、ケアマネ、介護職員で十分な連携をとりご本人や家族の望む支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p> <p>他の施設などへの住み替えは今のところ無いが、入居の際は情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐよう努めている。入居待機する方の例があった。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p> <p>個人の尊厳が守れるよう、ミーティング等でも話し合いがなされ、個別対応でケアが行われている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> <p>入居者の希望する品物を自分で購入する為の外出も増えた。表現しづらい方にはできるだけ耳を傾けるようにしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> <p>外出要望、個々にあった趣味の提供し一人一人のペースを大切にしているが、やはり「ふきのとう」の生活リズムである。</p>		<p>できる範囲で要望に応じられるよう対応していく。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> <p>おしゃれをするよう、声かけは行えている。理容、美容も外出ができる方は外出し、できない方は定期的訪問美容で身だしなみを整えている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> <p>食器拭き、盛り付け、下ごしらえなど、できる事を確認し、一緒に楽しみながら行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙をされる方はいないが、食事外出や、夏まつりでお酒を楽しまれたり、移動販売車で好きなものを購入して楽しんで頂いている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツの使用をできるだけ減らすようにしているが、排泄パターンが把握できない時もある。		定期的排泄の対応や、環境を提供するよう、よりいっそうのケアを心がけたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	できるだけ本人の希望に合わせた日程で入浴して頂いているが、入浴時間はほぼ決められた時間帯で対応している。同姓入浴希望者への対応は行っている。		夜間の入浴希望は無いが、できる限り希望に添って入浴を楽しめるよう努めたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々のペースや体調を見ながら休息の時間が保たれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	カラオケ、外出、買い物等要望に応じ対応しており、手伝い、縫い物などの声かけに拒否も無く楽しまれている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その方の力に応じ小銭は自己管理し、移動販売車等で買い物をしている。また買い物外出では、見守りの元、できるだけレジでの支払いを行ってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出、散歩はできる限り要望に合わせている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	買い物、映画鑑賞等、個別に対応している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話の対応、取り次ぎ、手紙のやりとりは自由に行える支援ができています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも来訪者が心地よく過せるよう配慮している。自室で団欒をされたり、リビングで一緒に過されたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアを行っている。また常に身体拘束の意義を研修会のプリントの回覧やミーティングで話し合われている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	一般家庭と同じように、夜8時～朝6時30分の夜間以外は施錠しない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜を通し、気配を感じながら見守りを行い安否確認を行っている。夜間は2時間おきに一度以上の見守りを行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の状態に合わせ、危険回避の為の物品の管理は行っている。たとえば、縫い物ができる方でも、物のしまい忘れがある方の針は預かっている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	内部研修、外部研修で学んだことを参考にしながら、一人ひとりの状態に合わせた事故防止策をミーティング等で話し合っている。またヒヤリハット報告の見直しで事故防止の意識を再確認している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命法の講習会やマニュアル作成、特変時の対応の研修会参加等により、誤薬や急変時の対応への意識を持ちケアを行っているが、定期的勉強会が必要と思われる。		年に一度位は勉強会や研修会の開催を心がけたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進委員会でのお願いはしてある。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々の身体的な機能低下をその都度ご家族にも伝えているが、ミーティング等でカンファレンスを行い、安全に過せるように心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの体調の変化は常に観察のもと、異変時には、ケアマネ、かかりつけ医と連携を図りながら、早期対応に努めている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期的にミーティングで薬の重要性を再確認し、緊張感が薄れることがないように努めている。また薬のセッティング等、処方箋を確認しながら皆が関わることで一人ひとりの疾患や薬を熟知するよう努めている。		安全確保のため、ミーティング等でも定期的に一人ひとりの疾患や薬を意識したカンファレンスを取り入れていきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	ヨーグルト、牛乳、運動、下剤の調整、座薬対応等で個人の排便状況を把握し医療とも連携しながら対応は行なわれている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔内の清潔保持の重要性は、研修会等の報告で周知され、より一層の支援がなされている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の水分摂取量は計量のうえ記録しており、昼夜を問わない対応で水分確保ができるように努めている(果物、ゼリー等で支援している時もある。)。また栄養状態も摂取状態を観察し医療との連携を取りながら栄養補助食品等での対応も行なっている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを回覧したり、手洗い、うがい、手すりの消毒、汚物処理時の消毒、来訪者への消毒励行等のほか、ウイルスの特性に合わせた消毒が行なわれている。		高齢者施設での感染症等の重要性を熟知するためにも定期的勉強会の実施を行なっていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	手ふきはペーパータオルを使用、まな板、布巾等は毎日消毒、定期的な冷蔵庫の消毒をチェックを入れて確認している。残りご飯には日付を入れ保管。消費期限の確認も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	鉢植えの花をおき楽しめるようになっているほか、ベンチを置き、入り口でくつろげる雰囲気作りが行っている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	行事で撮った写真や、季節に応じた壁飾り、風景写真の飾りつけなどで生活感や季節感を味わってもらっている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	気の合う人への配慮をしながら、食卓の位置を変更したり不快なく過ごせるよう努めている。自室で寛ぐ方も多い。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居前の説明で、馴染みの物をできるだけ用意してもらえよう話をしている。仏壇、飾り、椅子やテレビ等本人が居心地よく過ごせるようしてもらっているが、閉じこもりにならないような声掛けも行っている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	利用者の要望、体調に合わせ、換気や室温調整はこまめに行なわれている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの付いたフラットな廊下でそれぞれの身体機能を生かし自立歩行、下肢筋力のリハビリを安全に行えるようになっている。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	できることを見極め、失敗や混乱することを最小限に抑えながら、手伝いや日常生活動作の見守りや声掛けを行なっている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	鉢花の水やり、ベンチでの日向ぼっこ、夕涼み等、利用者が利用できるよう活かしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. サービスの成果に関する項目				
項目		取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない		
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない		
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	✓ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	✓ 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない		
98	職員は、生き生きと働けている	✓ ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない		
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	✓ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	✓ ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)